

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373201146
法人名	社会福祉法人鶴亀会
事業所名	グループホーム 龍ヶ岳
訪問調査日	平成 19 年 11 月 29 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4373201146
法人名	社会福祉法人鶴亀会
事業所名	グループホーム 龍ヶ岳
所在地 (電話番号)	上天草市龍ヶ岳町大道158番地 (電話)0969-63-0131
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成19年11月29日

## 【情報提供票より】(19年10月11日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋平屋造り	
	1階建て	1階

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	240 円	昼食	380 円
	夕食	380 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(10月11日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	2名	要介護2	4名			
要介護3	2名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83歳	最低	74歳	最高	94歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	上天草総合病院、道脇歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天草の海を見下ろす風光明媚な高台に、母体の特別養護老人ホームに併設して設置され6年目。母体特養と協力連携しながら、地域の実情を考慮して家賃1万円という安価でのサービス提供を行っている。理事長、管理者の福祉感とケアへの心構えを職員全員で体感・共有し、入居者の「その人らしく」を活かすためにどのようなケアをすべきかを常に念頭に置いて動いている。また、新人職員からの提案も一度は実行してみるという、意見の言いやすい環境と、よりよいケアを模索する姿勢がみられ、さらに職員が出かける時は「行ってきます」「行ってらっしゃい」、帰った時は「ただいま」「おかえりなさい」と必ず声を掛け合う家庭的な雰囲気が、入居者の穏やかな表情を引き出している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、口腔ケア、家族との密着な関わり、職員の休憩の取り方の工夫等が改善課題として挙げられている。口腔ケアは評価に基づき、毎食後の歯磨き、又は必ずうがいをするよう入居者に促す改善がみられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員が早くから自己評価に取り組み、それぞれが1年間を振り返り、より良いケアにつなげていこうとする意欲が感じられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの概要や行事報告・評価についての説明、及び報告が主な議題となっている。現在はホームからの情報提供で実情を知ってもらう段階であり、意見を活かしてホームの運営に反映することを今後の課題としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議は、1年交替で家族代表を委員にしており、家族からの意見も徐々に増えてきている。家族の訪問時には職員が必ず対応し、いつでも気軽に意見を言ってもらえる雰囲気づくりが見られる。また、毎月ハガキで入居者の近況報告を行ったり、行事の写真や絵手紙等を送り、家族に安心してもらうよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地理的に近所の人が気軽に訪れることのできるような場所ではないが、秋祭りの獅子舞を迎えたり、地元商工会の抽選会に出かける等、地域との交流を楽しんでいる。また、昔馴染みの商店、食堂、病院などに日常的に出かけ、地域の一員として生活する努力がみられた。

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	併設の特別養護老人ホーム開設以来、地域に密着した運営を続けてきており、グループホームにおいては、常に入居者が地域の中で「その人らしく」暮らしていくことを根底に置いたケアに努めている。	○	当ホームが地域密着型サービスであることを、理念あるいは基本方針の中に言葉として表現することで、さらに意識づけが強くなると思われる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎日ホームでの入居者や職員の様子を見ながら、職員に対し理念に基づいた示唆をしており、理事長の福祉感やケアに対する心構え等を、仕事の中で定着させている。また、月1回の法人の全体会議で重要事項の周知を図り、職員全体で共有し、実践に向けて対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地理的には近くに民家がなく、地元の人々との交流は難しい面もあるが、秋祭りの獅子舞に来てもらったり、保育園のお遊戯会や地元の方々との踊りの発表会場として場所を提供するなど、訪問を歓迎し、入居者との交流を行っている。また、地域の若手が行う地域興しを応援し、地域活性化の一役を担っており、法人全体として地域と関わっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	早くから全員で自己評価に取り組み、それぞれが1年間を振り返ってよりよいケアに活かそうとする姿勢がある。また、外部評価を、違った目でホームを見てもらう大事な機会と捉え、前年度の評価結果は運営推進会議で報告するなど、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催し、ホームの概要や行事報告、評価についての説明や結果報告等を行っている。現在はホームの現状を知ってもらう段階であり、意見をサービス向上に活かすことが今後の課題と思われる。	○	回を重ねるごとに少しずつ意見も出てきているようだが、ホーム側からの情報提供が主になっているようである。ホームの具体的な課題を議題として取り上げ、話し合うことで、出席者の興味や理解も深まり、家族・地域・行政の協力も受けやすくなると思われる。今後更に会議を有効に活用されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政は、運営推進会議の委員に市の介護保険課の職員が入っている以外の交流はみられない。市町村合併によって担当者がいる本庁が遠くなり、組織的にも変わったため、現在のところ連携が取りにくい状況である。	○	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられ、市との連携は以前にも増して重要となっている。単独ホームだけの取り組みは容易ではないと思われるので、他の事業所と協力し、市と共にサービスの質の向上に取り組む体制づくりが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ハガキで入居者の近況を報告し、行事の後は写真や絵手紙などを送っている。文章が書ける入居者には自分で書いてもらい、書けない人も名前だけは自分で書けるよう手助けし、家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時にはできるだけ話しかけ、何でも言いやすい雰囲気づくりに心がけている。運営推進会議は家族代表が一年交替で委員をしており、以前に比べて意見が出やすくなっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員の異動は最小限に抑えているが、異動がやむを得ない場合は、前担当者の経験を文書で報告し、詳しく申し送りをしている。また、異動日以前からホームの仕事に入ってもらい、引き継ぎをしつつ早期の馴染みの関係を作り、スムーズに交替できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回の内部研修では、事故事例の検討や入居者に関する課題の把握と解決など、その時に必要と思われる事例対応等を具体的に取り上げている。スタッフの不適切な対応を見かけた時は仕事が終わった時点でアドバイスし、改善が見られないときはしばらくリーダーの動きを見せて再研修を行う等、実践の中でトレーニングを重ねている。外部研修の機会も確保し、参加後は全員に報告して情報の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草地域のグループホームで地域連絡会を構成しており、3カ月に1回スタッフ研修を行っている。情報交換をしたり、疑問点を教えあう等、地域全体で質の向上に取り組んでいる。	○	地域におけるホームの存在のアピールや行政との関係強化は、同業者との協力関係を強化することで、より活動しやすく効果的になるものと思われる。ホームとして共有する課題や地域の持つ問題への取り組み等、地域連絡会でのより幅広い積極的なリーダーシップが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通常、入所決定後は施設見学から始まるが、馴染まないうちにすぐに入所となる場合も多く、不安が認められる入居者には、慣れるまで特に意識して職員が多く関わる配慮が取られている。また、家族や入居前の関係者にも来訪を依頼し、少しでも早い不安解消に努めている。	○	宿泊を伴う体験入所は設備上無理と思われるが、入居前に何回かデイサービスとして活用してもらうなど、徐々に馴染んだうえでの入所となるような工夫が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が自分の思いをざっくばらんに話せるように、信頼関係づくりに努力をしている。アルコールを希望する入居者には自室での飲用は認め、職員も焼酎の代わりに白湯を飲みながら晩酌につきあうなど、共に過ごす暖かい工夫が見られる。また、魚のおろし方や、春の行事「山菜御膳会」での昔ながらの山菜料理の作り方など、入居者に教えてもらうこともあり、支え合う関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が述べた言葉そのものや気づきを「情報ノート」に記録し、職員全員で入居者の思いを常に把握するようにしている。要望があっても職員が忙しいだろうと気遣って遠慮する入居者も数人おり、1対1の時間を取ってゆっくり関わり、意向を聞き出す努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人の基本情報を詳しく聞き取り、本人・家族の意向を配慮し、話し合いながら「その人らしく」を根底においた介護計画の作成が実施されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、現在うまくいっていること・いないこと・新しく取り入れるべきこと等をスタッフで話し合い、計画の見直しが行われている。状況の変化時もスタッフで再検討を行っているが、入居期間が長くなり、本人・家族の高齢化も進み、ホームにお任せしますという家族が多くなっているのが実情である。なお、見直し後の計画は、1カ月以内に面会があればその時に、なければ家族を訪問して説明し、了承を得ている。	○	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や理美容院への送迎・買い物や外食等、入居者の要望に応じての外出支援や地域との関わり支援を積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医は本人、家族と相談して決めているが、現在は皆、上天草病院を受診している。通院介助は職員が行っており、適切な医療が受けられるよう支援している。なお、家族が可能な場合は同行を依頼している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、どこでどのような終末期を迎えたいのかの意思確認書を提出してもらっており、本人・家族の希望に添った形での支援を基本としている。協力病院と連携しつつ、状況変化に応じて本人・家族と話し合いを重ねている。ホームでの終末を希望される場合は、ホームの職員が最期まで看取る方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りになることは皆に聞こえるように大きな声で言い、プライバシーに関わる内容によっては誰にも聞こえないように小さな声で話すなど、誇りやプライバシーを保つために細心の注意を払っている。1人しかいない男性入居者は遠慮がちになりやすいので、男性職員が「男同士でやりましょう」と声掛けし、行動を促す支援がみられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや節目を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食の前後は、職員を手伝う人、ビデオを観る人、職員と談笑する人、1人で離れて過ごす人など、思い思いにそれぞれのペースで過ごす様子が見て取れた。ボランティアの方々の発表会等が特養で開催される時も、楽しくない人は見学の途中でホームに帰るなど、無理せず、自由に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の本を見て入居者と献立を決めたり、一緒に買い物に行き食材を選んだり、食事の準備をできる入居者と一緒に行っている。また、ホーム前の畑で共に育て収穫した季節の野菜を料理に取り入れるのも、大きな喜びとなっている。食事中は1人の職員が見守り、入居者は静かに黙々と食べている様子が見られた。	○	これまで何度も試行錯誤した結果、職員は入居者の後で別メニューの食事をしているが、1人でも職員と一緒に同じメニューの物を食べることで、得られる気づきや入居者の喜びがあるのではないかとされる。また、彩りや盛りつけの配慮・静かに音楽を流すなど、楽しい食事の雰囲気作りへの工夫も大切かと思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望する時間にでき、午後から夕方が好まれている。男性職員の介助でないと入浴を拒否する入居者もあり、それぞれの希望にあわせ、気持ちよく入浴できるよう配慮している。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯などを取り入れ、入浴を楽しめる時間とする工夫もなされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・料理・洗濯物たたみなど、できること・好きなことに気軽に取り組める準備があり、何気ない誘いもある。また、クリスマス会等では、サンタクロースに扮する人、ツリーのスイッチを押す係、挨拶をする係など、一番いい表情になる入居者に割り振るなど、細やかな配慮がみられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、希望されたその時に希望を叶えることができるよう対応している。昔よく行っていた商店や食堂に出かけ、知人と出会って楽しく会話したり、ドライブで家の近くまで行った際は家族に連絡して会うこともあるなど、戸外に出る機会が多く持たれている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間玄関の施錠はなく、利用者の出入りは自由になっている。まっすぐな廊下の両側に居室がある構造で、見通しがよいということもあり、注意深く見守ることで入居者の安全に配慮されている。入居者が外出しそうな様子を察知し、さりげなく声をかけて同行するなど、本人の意思を尊重した介助が見られる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の他、2カ月に1回ホーム独自に入居者を交えた防災訓練を行っている。また、年2回、予告無しに緊急連絡網を使って夜中に職員を招集する訓練を実施し、緊急時に備えている。	○	緊急時の対応は事業所のみではなく、地域の協力が不可欠と思われるので、運営推進会議等で協力体制について検討することも良いと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量はチェック表に記録し把握している。特に水分量の確保は認知症にとって重要であると認識し、個別に摂取量の目標を立て、確保するよう留意している。また、糖尿病の入居者については週1回体重測定をし、医師の指示を仰ぎながら栄養面に配慮した食事に気が配られている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は採光よく、明るく清潔感がある。入居者はリビングのゆったりしたソファに座り、昔の映画や音楽でのんびりくつろいでおられた。表情がとても穏やかで、気持ち良く過ごされていることが感じ取れた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は衣類を入れる整理ダンス・人形など好みのものを持ち込み、壁には文化祭でつくった壁飾りや写真などが飾られ、それぞれが自分らしく暮らせる部屋となっている。また、居室の出入り口のピンクのカーテンが室内を明るく暖かいものとしている。入居者の不安や遠慮を取り除くために、「いつでも遠慮せずに職員を呼んで下さい」と書かれ居室内に置いてあり、職員の優しさが感じられた。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム龍ヶ岳
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上天草市龍ヶ岳町
記入者名 (管理者)	藤川 聖道
記入日	平成 19 年 11 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の見直しは特に行っていない	○	一度作ったままでなく、地域や利用者のニーズ、事業所の状況によって現状にあった理念に変えて行くことが必要
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングでは理念を掘り下げて職員全体で話し合い具体的なケアについての統一を図っている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の訪問時には、折に触れ繰り返し伝えている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人とのふれあう機会は少ない	○	増やしてゆく必要があり、運営推進委員の方と相談して行く
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り等には参加していないが獅子舞の訪問をお願いし来て頂いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の成果を地域に伝える場は運営推進委員会の場以外はない	○	地域の研修や啓発の場に職員が出かけて行き成果を伝える必要がある
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、研修会で報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる為の努力をしている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるように配慮している		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の方の運営推進会議以外の行き来をする機会が少ない	○	機会を増やす必要がある
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行っていない	○	勉強会を開き職員の理解を深める必要がある
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する遵守に向けた取り組みを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修を行い外部研修にも習熟度の段階に応じて積極的に参加し研修報告の機会も設けている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を儲けて質の向上に励んでいる	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務上の問題や健康上の相談を、いつでも相談可能にしている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の資格取得について、勤務の調整等、便宜を図っている	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者によっては、利用前の関係づくりが不十分な場合もある	○ サービス利用前の関係づくりが必要
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者によっては、利用前の家族様との関係づくりが充分とは言えない場合もある	○ サービス利用前の関係づくりが必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ずすぐに利用になった場合は、ご家やそれまでかかわってきた関係者に来てもらうなどして安心感をもってもらうようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側される側という意識を持たず、お互いが協力しながら和やかな生活ができるような場面づくりや声掛けをして入居者の方からは「お互い様」の言葉があっている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの情報共有に勤め本人と一緒に支えるために支援していることを伝えている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに報告するとともに手紙をご自身で書いてもらうなど関係が途切れないよう留意している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの商店に行き知人の方と会話ができるよう出かけて行く場面をつくっている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者どうしの関係性について情報連携し、全ての職員が共有できるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了した後の家族からの相談にのっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。希望意向があった場合はすぐに記録するようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時にご本人や家族の方から聞き取りを行っている。又、本人から聞いた事をすぐに記録するノートがある		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、出来ないことより、出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で意見を聞き反映されるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換を行っている	○	本人の意見が少ないので、それを引き出す必要がある
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化が生じた場合は期間が終了する前であっても検討見直しを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や、本人の言葉を記録しており、それを職員が確認できるようにしてあり勤務開始前の確認は義務付けている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族様の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高める様、努力している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地区、区長、消防指揮隊長さんと意見交換をする機会を設けている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していない	○	他のサービスを利用を取り入れて行く必要がある
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの協働機会が殆どない	○	機会を増やす必要がある
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と協力し通院介助を行ったり訪問診療に来てもらうケースもあり複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医と診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。又、年1回、勉強会の講師をお願いしている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており常に状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない場合でも電話連絡により指示を受け、対応している		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には職員が頻繁に見舞うようにしている。又、家族様とも情報交換をしながら回復状況など速やかな退院支援に結び付けている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応方針を定め入居時に意志確認書を記入頂いている	○	開設してすぐの入居者の方についての確認者がいない為、早期確認が必要
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族様と話し合い利用者が安心して納得した最後が迎えられるよう取り組んでいる。急変した場合は直ぐに対応して頂けるよう医療機関と連携を図り対応している		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランを手渡している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	施設内研修やミーティングの時に職員の意識向上を図るとともに、日々のかかわり方をリーダーが点検し利用者のプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	おやつ等も、同じ物ではなく複数の中から選んで頂くなど、選びやすい場面づくりをしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等一人ひとりの思いに配慮しながら柔軟に対応している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事等、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの畑があり一緒に作り、収穫した野菜を調理する等の活動を行い、食事を楽しんでいる	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品を本人の希望に応じて楽しめるようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの時間を把握しておりトイレ誘導している。失禁があっても周囲に気づかれないようスタッフ同士の暗号を使う等の工夫をしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望時に入浴して頂いており、入浴を拒む人に対して言葉掛けや対応の工夫、チームプレイ等によって気分良く入浴されるよう配慮している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう勤めている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所が管理している人でも外出時のお金は、自分で払っていただけるように、お金を手渡すなどの工夫をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけでなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族様と温泉旅行に行かれる機会がある		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、近況報告を行い、入居者本人にお願いしたり、紙手紙等も楽しませている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間面会ができ希望により泊まれる方も歓迎している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害について理解し拘束のないケアを実践している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守る職員を明確ににており、夜間は時間ごとに利用者の様子を確認し起きられたらすぐに対応できる居場所を工夫している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて注意が必要な物品は何かを職員で把握し管理方法の取り決めをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合は速やかに予防対策の検討会を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時の対応マニュアルをスタッフの部屋の壁にはり、常にイメージできるようにしている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な外出によりリスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の弊害を少なくしていることを家族にも説明している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容(目的・用法・用量・副作用)を把握できるよう最新薬情報としてファイルしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしている。又、腹部マッサージも行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回うがいを実施して頂いており、夕食後は歯磨きを本人の能力に応じて支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて食事、水分の摂取量を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防についての勉強会を看護師にお願いし実施している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルをいつでも確認できる場所に設置しており、フキンは毎日漂白し、冷蔵庫内の確認、洗浄を定期的に実施している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を生けたり、玄関前にプランターを置いたりして季節感を演出している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆず湯や菖蒲湯、鍋料理や山菜御膳など、五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の人の気配を感じながらも、一人で過ごせる居場所づくりの工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを、生活スタイルに合わせて用意している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一定の時間帯に換気をしており温度調節について職員は常に意識をもって対応している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化等に考慮し利用者の現在の状態に応じて移動バーの設置等、生活環境の改善に取り組んでいる		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの混乱を招くような環境の原因に対して速やかに補修や工夫を行っている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり畑のスペースを確保し利用者が日常的に楽しみながら活動できる環境を作っている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)